



吉田会長(左)から山本市長へ

農地等利用最適化推進施策等に関する意見書を提出しました

平成28年4月に改正農業委員会法が施行。平成29年7月20日より当委員会は新法体制に移行し、平成30年1月26日に「農地等の利用の最適化の推進及び農業振興施策の実現に向けて」、同年9月5日に「生産緑地地区の追加指定及び生産緑地地区の区域の規模に関する条件の引き下げについて」の意見書を山本市長へ提出しました。

平成29年6月施行の改正生産緑地法により、市町村の条例により一団のものの区域で下限面積500㎡を300㎡まで引き下げることが可能となりました。これを受けて9月提出の意見書は、より多く小規模な農地も生産緑地として残していけるように、積極的な生産緑地地区の追加指定と、下限面積を300㎡とする条例の制定を要望する内容になっています。同意見書に対し山本市長は、「都市農地を守る立場で検討したい。今後条例づくりが必要であり、手続きに時間を要するが、一日でも早くできるよう努力していく。」と決意を述べられました。

なお、2件の「宇治市農地等利用最適化推進施策等に関する意見書」及び昨年度実施の「農地等に関するアンケート調査の結果」については、宇治市ホームページに掲載しておりますので、ご参照ください。このアンケート調査にご協力頂きました農家の皆様方、誠にありがとうございました。

管外視察研修

農業委員と農地利用最適化推進委員で平成 30 年 11 月 23 日、24 日に島根県松江市と雲南市へ視察研修に行きました。

1 日目は松江市の農業委員会で農地の利用集積、遊休農地発生防止・解消の取組等について話を聞き、その後、市の中心部から車で約 30 分の山間地にある滞在型体験農園「やくもアグリパーク」を見学しました。

やくもアグリパーク



2 日目は松江市から車で約 1 時間の雲南市へ行き、農業委員会で、農地の利用集積、遊休農地発生防止・解消の取組等の他、空き家付き農地の下限面積(1 アール)の設定について話を聞きました。雲南市は島根県で唯一海に面していない山間地の市であり、過疎化対策の一貫で移住を促進すべく、空き家付き農地の斡旋に尽力されていました。

2 市とも農地面積と農家数は宇治市よりはるかに規模が大きいです。今後の活動に活かしていきたいと決意を新たにしました。



農業者年金に加入しませんか

お抹茶接待



宇治茶レディも来庁者をおもてなし

全国茶品評会及び関西茶品評会のおうじ茶の部において、宇治市は産地賞（品評会で最も優秀な成績を収めた市町村に授与される賞）を受賞しました。

受賞を記念して、平成 30 年 12 月 20 日市役所ロビーで宇治市茶生産組合によるお抹茶の接待が無料で行われ、多くの来庁者が風味豊かなお抹茶を堪能されました。

また、チャチャ王国のおうじちゃまも会場を賑わせていました。



農地の利用状況調査

平成31年1月10日、農地部会員及び地元推進委員で西笠取地区の非農地判定のため、荒廃農地の最終確認を行いました。これは毎年非農地判定対象地区を絞り、再生利用が困難と見込まれた農地について、委員により現地調査を行うものです。

この結果、59筆(25,020㎡)が荒廃農地と判断されました。所有者には今後どのように利用されるのか意向を確認し、改善を図っていきます。

また、その他の地区でも雑草の繁茂等、適正に管理されていない農地については、引き続き指導を行っていきます。



宇治市農林まつり2018

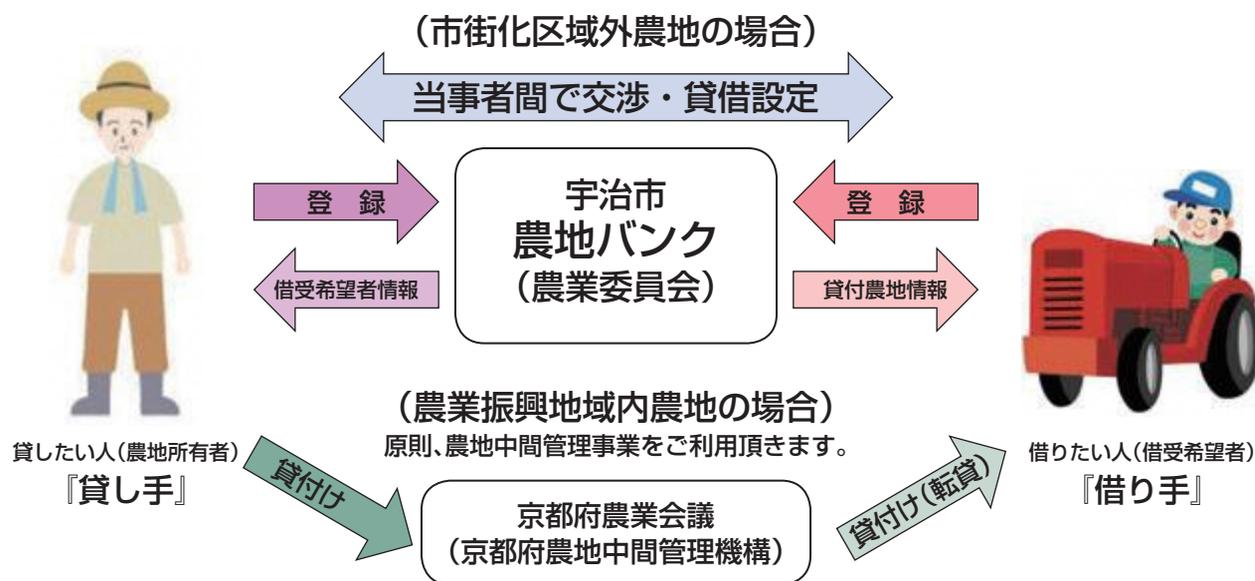


平成30年11月23日、毎年恒例の宇治市農林まつりが同実行委員会の主催により、西宇治公園多目的運動広場で開催されました。

天候に恵まれ早朝から大勢の人で賑わい、オープン前から、お目当ての特産品のブースの前に長い行列ができました。

全14団体による野菜・米・花・干椎茸・お茶等の特産品販売のほか、ストラックアウトや○×クイズ等の催しがあり、大人から子どもまで多くの人を楽しい時間を過ごしました。

宇治市農地バンクに登録しませんか



全国農業新聞

購読のお申し込みは農業委員会事務局へ

毎週 金曜日発行、B3版8～10ページ 月額700円(送料、消費税込) 発行：全国農業会議所

フォーカス



農業を始めて2年 1つ1つを確実に

榎島町 川北 晋也さん

お米やブロッコリー、キャベツを中心に、水菜、大根、かぶらなど多品種を栽培。地元小学校では地域の農業や農作物への関心を持ってもらうため、自身が手がける京野菜の特徴や農業の苦労話などを分かりやすく伝えている。

●自動車販売業から農業へ

一昨年の2月に父が亡くなったのを機に、約17年勤めた会社を辞め、父の営んでいた農業を継ぐようになりました。今は母と2人で携わっていますが、今年からは妻にも手伝ってもらおう予定です。

●やりがい

勤め人だと自分の気持ちと違うこともやらなければならぬのですが、農業は自分の思いや段取りでできることが多いので、そこにやりがいを感じています。

●自然には勝てない

昨年は台風によりパイプハウスが倒壊したことに加え日照不足も重なり、予定していた出荷数に満たなかったんです。そういった経験から、自分のできる範囲で、1つ1つ確実にロスを減らし出荷していくことにこだわりを持ってやっています。

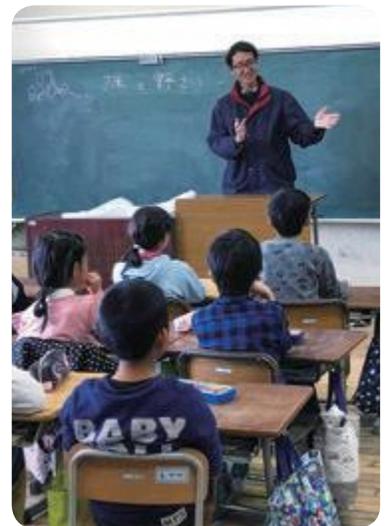
●趣味はサンデーメカニック

元々機械を触ることが好きで、以前の仕事の関係から整備士やフォークリフト、危険物取扱等の資格を保有しており、今でも時間がある時は車の整備などをして過ごしています。

●「もったいない」をなんとかしたい

昨年より水菜を作り始めましたが、5月には温度管理の失敗、7月は大雨で水没。お米は前年に比べて2割ほど減ってしまいました。

今後は技術を習得して、ロスなく出荷できるよう生産していきたいです。



感想

お忙しい中、仕事のことや青年部の仲間と取り組んでおられることをたくさんお話して下さり、楽しい取材でした。印象的だったのは、生産した作物はロスせず出荷する目標があるというお話でした。それを所得や収入に繋げる、という当たり前のことを当たり前に目標として掲げる。私も何か川北さんに教えていただき、気付かせてもらいました。(広報部会 水主哲寛)